考えウシ

第十六回『キュウソネコカミ』とみんな大好き陰謀論

ネコとネズミもなかあい!?

弦楽器イルカ ＋友人

第十六回　『キュウソネコカミ』とみんな大好き陰謀論〜G から Uへ〜

「♪合ってた〜」って、あの「だらしなイヤラシさ」が真骨頂だと思ったんだよ、aikoの。
　いや、大丈夫。今回のUへの手紙、書き出しはこれで合ってる。
　akio好きのUにものすごく今更ながら、年末の紅白でaikoが歌った「LOVELETTER」がすごい印象深かったって話をずっとしようと思って忘れてた。
「だけど」と来て「合ってた」って来るとは予想しなかった。普通「心ひかれた」とか「胸を打ったよ」とか詩的な表現しちゃいたいとこだ。それが「だけど、合ってた」って。普通じゃん。語呂も悪いし。
　でも、そこがaikoの才能だと改めて感心した。あのダラダラとした言葉足らずな語感こそが、恋に当てられてる女子のぽおっとした高揚感をうまく表してると思った。
椎名林檎ではエッヂが効きすぎてる、宇多田ヒカルでは切実すぎる、と感じる女子に向けて、aikoは発情乙女のなんでも可愛いでまとめたい気持ちを代弁してるんじゃなかろうか。
　男は視覚、女は聴覚と触覚で恋をするとか巷で言われてるけど、他にも「あなたの耳におでこを寄せて甘い匂いに誘われた甲虫は私」とか、「夏の星座にぶら下がって上から花火を見てあなたが好きなのは仕方ないんです」とか、「唇かんで指で触ってキスを確かめて頬ずりすると時間が止まる」とか、ボディタッチ重視のどうしようもない「だらしなイヤラシさ」がすごいあるよね。でもそれを可愛らしく「雨がやんで星がこぼれて迷い込んだ」とか詩的な表現で飾り付けるから、乙女のハート鷲掴みみたいな感じがする。

　実は最近、『キュウソネコカミ』ってバンドが面白くてアルバム全部買って聴いてる。PVも良かった（「ビビった」って曲は関西版「ロックンロールは鳴り止まないっ」ってもいいかもしんない）。ただ、4枚のアルバムに計40曲くらい入ってるのに、詩的な表現がまずほとんどないってとこに他人事ながらちょっと心配になった。
　怒りはわかる。曲もいい。洒落も効いてる。ただ徹底して理屈重視。いわゆる詩的なぼやかす表現、夢とか翼とか扉とか、夢の翼広げて扉開こうとか、そういう大衆に訴えかけるオカズが皆無。
　たぶん照れくさいんだと思うんだよ。俺は昔のユニコーンを思い出したんだけど、ユニコーンでも「パパは金持ち」とか言いながらも、一方ではちゃんと「とても暑すぎた夏の君は自転車泥棒」とか「今も過ぎた日の暖かい影に閉ざされて」とか詩的な表現が要所に入ってくるからね。あるいは「セクシーランジェリーの変なおじさん」とか「君はとってもブスだから僕の後ろを離れて歩け」とか無茶を歌ってたあの『電気』にだって、「N.O」とか「虹」とか詩的な曲もたくさんあるワケだから。
『キュウソ』に「テレキャスばっか」って、作った当のメンバーもインタビューで「クソだ」って見捨てたような歌があって、（たぶん彼らがつまらないと思うバンドの曲をわざと意識して作った歌で）、でも俺はすごくキャッチーで歌詞も悪くないと思った。こういう曲にもう一回詩的な歌詞を乗せ替えてアルバムを作り直したらいいのにって思うんだよね。

さて、というワケで今回は、キュウソ、寄生獣、陰謀論、朝日新聞と調書、原発あたりをまとめて仲良くケンカしたい。さて行ってみよう。
『寄生獣』が日本で映画化されるけど、どうせなら監督はポール『ロボコップ』バーホーベンとかサム『スパイダーマン』ライミ、あるいは元ネタのジョン『遊星からの物体X』カーペンターなんかがよかった。でも結局日本で主演が染谷将太なら、せめて監督は園子温だったらなぁ、と俺は思う。
ただ俺も、『寄生獣』の新刊が待ち遠しくて指折り数えてたあの頃から20年経って熱もだいぶ冷めたから、新しい世代の読者を獲得するための映画化って割り切れば内容はどうでも気にならないかな。
でも日本の商業映画の限界だと思うのが、深津絵里が田宮役だってこと。彼女本人には全く非がない、むしろ素晴らしい女優さんだからこそ、つまり「踊るアレの人が来た」ってなるから、背後から「キター！」とか「オイース！」とかやたら聞こえそうで気になっちゃうっていう。
そこはやっぱ『天誅』の地味な主演女優を抜擢してほしかった。あの人の眼、今からでもきっと「承知」ってやってくれる人の眼だよ。とにかく、まだイメージが着いてない無名女優をビビって起用できないのが、日本の商業映画の限界だと思った。
ついでに脱線するけど、園子温と染谷将太のドラマ『みんな！エスパーだよ！』は面白かったけど、原作がさらにすごくいい。『稲中』だと思って下ネタで笑ってたら、いきなり『デビルマン』になってどん底にたたき落とされるっていう。他人の不安や絶望が可視化されて、登場人物と読者が同時に共感するって描写が圧巻だった。もっと評価されてほしい漫画だね。
『寄生獣』は元々『デビルマン』の影響を受けてるんだけど、その後『ガンツ』『彼岸島』『アイアムアヒーロー』そして『進撃の巨人』等、バイオレンスな漫画はたくさんあれど、それらを差し置いて俺がビビッ！て来たのは、『DMC』（クラウザーさん）描いた人の下ネタギャグ漫画だったって、すごく新鮮で面白い。

さて前回の続きだけど、村上春樹は割と真剣に陰謀論について書いてたんじゃないかと改めて思う。「羊」に星があるってのも、米・中とか国旗に星がある国は多いし、影の外圧に支配された権力者がこの国の政治を動かしてたって告発の意味があったんじゃないだろうか。ネットがないあの時代、そういう裏の情報は今ほど簡単には手に入らなかったから、春樹が小説内で広く世間に知らしめる意味はあったと思う。
でも今はネットで簡単に、『羊をめぐる冒険』の先生は誰がモデルかって推測が検索できる。ネットやスマホが普及して脳の意味が変わったね。ちょっと前までクイズ番組の答えは司会者が発表するまでわかんなかった。ネットやスマホはまさに新しい人間の臓器ってワケだ。
そして『1Q84』ではさらに陰謀論が世界規模になった。一般市民には一生かかってもお目にかかれないという意味で、宇宙人でも妖怪でも人間でも誰でもいい誰かが世界を動かしてるという陰謀論を、「リトル・ピープル」を使って表現してると思う。もちろん「リトル・ピープル」には、「その場の空気」による支配とか、父権的な力による支配でなく母権的なゆるやかな支配

って意味合いもあるんだろう。

　というわけで、みんな大好き陰謀論って眉唾話に突入するんだが、俺がもしこの世界を牛耳る支配者だったら、影の存在として君臨することにとっくに飽きてると思う。ハリウッド女優がクラウドでハレンチ画像流出したけど、金持ちになって力を持つほど火遊びがしたくなるんだろうと俺は思う。
　だからもし俺が今後テロを演出する機会があったなら、ビルに飛行機は突っ込ませないで爆弾で爆破するね。それであの爆発はなんだったんだって騒がれてから、飛行機がビルに突っ込んでる雑なCGを捏造してメディアに流させる。その嘘が世界を席巻する様に高笑いするね。いくら一般市民が怪しいと疑っても、メディアの情報のほうが真実として世界に発信され、誰も支配者を覆す力なんて持ってない。圧倒的無力さが一般市民に浸透する。支配者にとって単なるジョークだと思う。
　あるいは俺がこの国の政治家だったら、自分たちだけが儲かる仕組みを作って、公給もらって末代まで安泰な権力を構築するね。そのために一般市民の銭を徴収して自動的に自分の懐に入るようなシステムを構築する。大昔から変わってない年貢システムなんだろう。

　さて、今回の本題だ。朝日新聞が謝罪したけど、「従軍慰安婦」については俺は何も書かない。ただ「調書」の件に関しては書いておきたい。
　俺はこの件に興味があったから、朝日新聞のネットでの特集も読んだし、コンビニで当日の朝刊も買った。そして「調書」の原文も政府のHPから落として読んだ。
　俺の未熟な国語力をUは支持してくれてると思うからはっきり書くけど、騒ぎの大部分は国語ができない「あの層」のせいで起きてる。原発（とか集団的自衛権）を支持する立場の「あの層」と、反発する立場の「あの層」が、考えるより先に互いの看板掲げて批判し合ってるだけだ。まさに青島の出番だ。事故はネットや新聞紙上で起きてるんじゃない、今もまだ原発で起きてるんだ。
「原発の下請け企業の従業員の男性ら4人が東電に待遇改善を求めて訴訟を起こした」とか、「汚染水が毎日220億ベクレル漏れてる（2014年8月25日　東電の福島県漁連組合長会議説明資料）」とか、「福島の子供に甲状腺がんが見つかった57人のうち、医大が手術した54人について、8割超の45人は腫瘍の大きさが10ミリ超かリンパ節や他の臓器への転移などがあり、診断基準では手術するレベルであり、2人が肺にがんが転移していた」って話はほんのわずかな報道程度で、結局金になる原発推進に関わる情報だけが大きく取り上げられる。
　そしてたぶんこの「調書」の話題も今後急速に縮小していくだろう。なぜなら、今でもネットで読める朝日新聞の特集、訂正したのは「命令違反」という一部分だけなのに、記事全部を否定したみたいに騒がれているから。「美味しんぼ」が批判されたときも感じたんだけど、火の粉が政権側に逆に飛び火する前に素早く鎮火ってのがこの国の報道作法らしい。
　さて、「この調書の突っ込みポイントはどこか？」という国語の問に関して、俺の解答を以下に示しておく。

まず原文にあたってみよう。何事も現場から。以下に国のHPから落としたPDFを貼る。

政府事故調査委員会ヒアリング記録　事故時の状況とその対応について４
http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/hearing_koukai/hearing_list.html
55ページ（○回答者　＝　故・所長）

○質問者　そうですか。では、例えば、意思決定などをするに当たってとか、現場でいろいろ実施をしようとするときに、そこで混乱するなどということはないわけですね。

それで、３月 15 日の６時ぐらいに異変が生じて、最初は２号機の圧力が一気に低下していって、それから、衝撃音がしたということが合わさって、最初の報告のときは２号から報告が来て、２号であったんだろうという、この音と結びついてですね。その後、今度また４号の方という話も来るわけですね。しばらく人員が少なくなる。

○回答者　バスで退避させました。２Ｆの方に。

５6ページ

○質問者　圧力計が仮に故障していなかったとして、圧力がマイナスの状態というのは考えがたい状況だというのがありますね。基本的にこれは圧力計が故障しているだろうと、爆発の影響で。

あと、一回退避していた人間たちが帰ってくるとき、聞いたあれだと、３月 15 日の 10 時か、午前中に、GM クラスの人たちは、基本的にほとんどの人たちが帰ってき始めていたと聞いていて、実際に２Ｆに退避した人が帰ってくる、その人にお話を伺ったんですけれども、どのクラスの人にまず帰ってこいとかいう。

○回答者　本当は私、２Ｆに行けと言っていないんですよ。ここがまた伝言ゲームのあれのところで、行くとしたら２Ｆかという話をやっていて、退避をして、車を用意してという話をしたら、伝言した人間は、運転手に、福島第二に行けという指示をしたんです。私は、福島第一の近辺で、所内に関わらず、線量の低いようなところに一回退避して次の指示を待てと言ったつもりなんですが、２Ｆに行ってしまいましたと言うんで、しようがないなと。２Ｆに着いた後、連絡をして、まず GM クラスは帰ってきてくれという話をして、まずは GM から帰ってきてということになったわけです。

○質問者　そうなんですか。そうすると、所長の頭の中では、１Ｆ周辺の線量の低いところで、例えば、バスならバスの中で。

57ページ

○回答者　今、２号機があって、２号機が一番危ないわけですね。放射能というか、放射線量。免震重要棟はその近くですから、ここから外れて、南側でも北側でも、線量が落ち着いているところで一回退避してくれというつもりで言ったんですが、確かに考えてみれば、みんな全面マスクしているわけです。それで何時間も退避していて、死んでしまうよねとなって、よく考えれば２Ｆに行った方がはるかに正しいと思ったわけです。いずれにしても２Ｆに行って、面を外してあれしたんだと思うんです。マスク外して。
○質問者　最初にＧＭクラスを呼び戻しますね。それから、徐々に人は帰ってくるわけですけれども、それはこちらの方から、だれとだれ、悪いけれども、戻ってくれと。
○回答者　線量レベルが高くなりましたけれども、著しくあれしているわけではないんで、作業できる人間だとか、バックアップできる人間は各班で戻してくれという形は班長に。
（休憩）

上記が、フクシマ50と呼ばれる人たち（実際は69人らしい）がどうして第一原発に残ったのか、当時の所長の目から見た話だ。もちろん、一個人の記憶と実際の出来事では異なっている部分も多々あるだろう。

上記を踏まえて朝日新聞が問題にした点のいくつかを以下に箇条書きする。

① 「所長自身は別な指示をしたつもりだが、69人以外の約650人は、10数キロ離れた第二原発に一回退避してしまった。よく考えればはるかに正しいが、しょうがないからGM(グループマネージャー)クラスから呼び戻した」と所長自身が感じている。

② 事故対応を指揮するはずのGMまで退避した。これは、過酷事故発生時に原子炉の運転や制御を支援するGMらの役割を定めた東電の内規に違反する可能性がある。

③ その間、3月15日午前7時頃から昼までに、今回の事故で最高濃度となる放射性物質を放出する危機的状況となっている。

④ 大事故が起きれば、誰が原発の作業にあたるか、様々な問題が起きる。

一旦報道した以上、これらの裏付け取材を実施し世間に広く公表するのが報道の使命だと俺は思うが、それより先に社長が謝罪してしまった。この国の報道の限界はここらへんなんだろうね。

そして、ここからが俺の国語の答案だ。最も突っ込まなければいけないと俺が感じる点だ。

① 原発は事故が起きると、電力会社社員だけでなく下請け作業員も、死を覚悟で作業しなければならない。

② その下請け作業員の月収は平均20万円で特別待遇もない、と報道されている（ウィキ「フクシマ50」、ウォールストリート・ジャーナル2011年 3月 25日）。

③ つまり、サラリーマンの平均よりも低い収入の人間も含めた69人に、あの時、国の命運がかかっていた。そしてその現状は、今もあまり変わってない。

日本兵でも米軍基地でも原発でも、いわゆる「尊い犠牲を払った」「身を捧げた」英雄を称える「あの層」は、逆に犠牲に対する対価は極力少なくしたいと考えてる。犠牲者が対価を求め出すと、「お国のために身を捧げられた幸運を誇りに思って沈黙しろ」と逆ギレする。だが「あの層」はその同じ口で「頑張った人、汗を流した人、一生懸命切磋琢磨し知恵を出した人が報われる社会をつくっていきたい」とか言う。

　でも例えば半沢ってドラマが流行った原因の一つは、金融業界っていう「直接触れる物を製造するのではなく実態が見えない数字だけを動かしている人々」が高給を取り、実際に町工場で物作りに従事する人々（や、介護とか、保育とか、ゴミ処理とか、廃炉作業とか、後方支援とか、現場で汗流す人）が使い捨てにされるって現実が確固として存在してるからだ。「国を命がけで守っている国民に対価を払わないお金持ちのあの層」が、「この国の名誉を傷つけたのはあなた（で、あの金をもらうのはわたし）」と絶唱する。
　ただ残念なのは、ここまで書いてきた「あの層」ってのがいったい誰なのか、国語力のない俺には皆目見当もつかないってとこだね。きっとそれが、「リトル・ピープル」の正体なんだろう。品切れの妖怪ウォッチがあれば見ることができたのかな。残念。
　原発の作業員にも年収一億、避難民にも年収一億、これから集団的自衛権が発動した際は後方支援する某J隊員にも、あるいは核兵器保有した場合それに携わる職員にも、並びにその核兵器を落とされた敵国民に対しても、全員一人ずつ年収一億あげる。そういう国なら俺は好きだね。
　最後は金目だよ。でも、自分の身を切り刻んで絞り出す金目じゃなきゃ、対価に見合う金目にはならないと俺は思う。

　というワケで最後に、「汚染水バケツチャレンジ」の企画を考えた。
　福島で国家的プロジェクトに従事している下請け作業員に、一日一万円の日当を渡す基金を設立するために、日々汚染水が漏れ続けている現実から目をそらさないために、あとバケツにウラン入れて被曝した昔の事故も忘れないために、タンクから漏れている汚染水をバケツリレーして貯水プールまで運ぶ企画をやったらいいんじゃない？ 右も左も政治家も貧乏人も争う前に一丸となって、そのくらいの痛みは分け合わないといけないんじゃないの？ って意味でね。

　結局、日対中韓の対立がやたらに煽られるのも、各国が反（日・中・韓）感情で自国民をまとめたいとか、米軍に守られる口実を作って対米従属を続けたいとか、軍事費を減らしたくないとかのメリットがあるからだと、疑いたくなる俺がいる。
　とかって偉そうに書いてきたけど、さっき「新一に寄生する前のミギー」みたいな一匹の虫を殺すのに深夜数時間格闘した俺もいて、今もその殺伐さにおそれおののいている。虫を殺す俺の正義はどこだって、ビビりながら考えてる。所詮その程度の小さな人間が、でっかい正義ふりかざしたところで本当に、本当になんの意味もない。
　ここはひとつ、「正義なんて言葉は死ぬまで胸にしまっとけ」っていう、「踊るアレ」の名ゼリフでまとめとこう（今ウィキで初めて知ったけど）。
　虫も人間も、自分の命を守るために必死で戦う「キュウソネコカミ」なのだから。

　今回はこんな感じ。ではさようなら。

どうかな？

「はみだしウマシカさん　その４」

「ＧＺばっか」

どこでも　そこかしこでも
モノクロの言葉が飛び交う
シロとクロに分かれて
陣取りゲームが終わらない

とはいえ　それはバーチャル（ニジゲン）
現実には誰も話さない
ため込んだストレスを
文字に押し込めてぶちまける

表裏一体の世界で
パタパタ意見ひるがえす
知りもしない獲物も
みんなでハタけりゃ怖くない

実は裏で金持ちの
都合通りに踊らされ
グレイに染まる　クレイジー？
おー　おー

めぐる
めくりめぐる世界で
シロとクロのパイを
指先に乗せて

衝動のフリして
実は　周りとシロクロ（色）　合わせて
安心してから
投げつけ合うのさ

とはいえ　俺の日常
生活は何も変わらない
天然色の現実（ヨジゲン）を

ＧＢ（ゲームボーイ）には戻せない

誰に向けて　わかりやすく
何を言ったとこで
くるくるめくる　堂々巡り
いずれバターになって

溶ける
溶けまくる俺たちは
媚べ媚べに媚びて
舐み舐みに舐めて

結局うやむや
ピクリとも動かないまま
1億人の足を
止められないのさ

めぐる
めくりめぐる世界で
シロとクロのパイを
指先に乗せて

衝動のフリして
実は　周りとシロクロ（色）　合わせて
安心してから
投げつけ合うのさ

混ざる
混ざり合うこの世界で
そんなこんなあっても
世の中ＧＺ（グレイゾーン）ばっか！

どうでもいいのさ
現実逃避だけなのさ
ホントに言いたいのは
キミが　好きなのさ

考えるウマシカ～第十六回　『キュウソネコカミ』とみんな大好き陰謀論～

http://p.booklog.jp/book/89951

著者：弦楽器イルカ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/89951

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/89951

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ